

平成24年2月27日

作成：西 浩司

## 平成23年度第2回組長会議事録

開催日時：平成24年2月19日（日）午前10時00分～12時00分

場 所：すみれが丘会館 2階

出席者：組長 52名

司 会：吉田正孝（第8ブロック会長）

議事次第：

会長挨拶

3.11 大震災を踏まえた減災出前講座

防災部会報告

広報部会報告

環境衛生部会報告

平成24年度事業計画策定にあたっての組長さんのご要望

町内の諸問題についての組長さんとの意見交換

その他（連絡事項）

議事内容：

1. 出前講座（横浜市都筑区役所総務課危機管理担当係長 工藤誠志氏

<配布資料：「減災行動」のススメ、都筑区防災マップ>

・横浜市としては「減災」について広報が不十分と考えており、各町内会に対し出前講座を実施している。

・自助・共助・公助のうち、自助が重要と考えており、それについて詳しく説明する。

・「減災行動」のススメは平成21年度に市民アンケートを実施し、それを踏まえて作成したパンフだが、「何をやるか」をアクション1～7として順番に書いてあるのが特徴。

・阪神大震災では倒壊による死者が9割、関東大震災では火災が主だった。今後の減災では最近の家屋の耐震化、耐火性能向上を踏まえて対策を考えていく必要がある。

・アクション1：昭和56年の耐震基準の改訂があり、それ以前の家屋については耐震診断を行う。

・アクション2：家具の固定。川和町での出前講座では2/3の人が家具の転倒だけがをしようだと回答している。自分の家庭を点検してほしい（特に寝室）。天井が石膏ボードの場合は、突っ張り棒に板を1枚かませるとよい。

・アクション3：概ね3日で援助物資が入るので最低3日分の備蓄を行う。地域防災拠点（すみれが丘の場合はすみれ小）には2000食の備蓄しかない。主に家屋が使えない人を想定している。家屋が使える場合はそこでしのいでもらう必要がある。

・備蓄のポイント（食品）：レトルト食品の備蓄は管理が大変で推奨しない。お菓子でもよい。各家庭には米が通常あるので、それを調理できるカセットコンロなどがあればよい。つまり通常の生活において用意してあるものでしのげるかどうかを考えればよい。ちょっと余分に持っておけばよい。あらためて防災用にと買う必要はない。自宅を点検してみしてほしい。

・備蓄のポイント（水）：水の備蓄は必要。3L/人/日の水の備えを考えればよい。水道局で緊急給水タンク、牛久保配水池などの対応はしているが、すみれが丘にはこれらはなく、取りに行くか、給水を待つしかない。

・備蓄のポイント（トイレ）：トイレパックは特に備蓄をお願いしたい。防災拠点には5000パックしかない。池辺町では畑地が多いので必要ない（穴を掘ればよい）。このように地域の状況に応じて備えることが大事。5個/人/日を最低お願いしたい。ホームセンターで購入できるし、コンパクトなので保管も容易。

・アクション4：DIGなどの訓練もやっているが、地図で危険箇所などを確認しておくことが重要。

・アクション5：医療についてはすみれの周辺では北山田小が拠点になるが対応できることは限られている。できるだけケガを負わないようにすることが重要。

・「広域避難場所」は国際プール周辺などであるが、そこには何か備えがあるわけではない。あくまでも広域の火災（輻射熱）を一時しのぐ場所というだけである。

・高齢者・障害者に対しては、東山田ケアプラザなど特別避難施設が区内に20か所ある。さらに会社の研修所など4か所と協定が結ばれている。しかし、区（市）が特別避難施設として開設してから振り分けて利用できるようになるので、必ず入れるわけではないことに注意が必要。地域防災拠点で高齢者・障害者が必要な人の数を把握し、それから市・区が受け入れ先を調整することになる。このことも含め、区は拠点に情報は取りにいかない。拠点から必要物資等の情報を上げる必要がある。

・アクション6：帰宅困難者対応については歴史博物館と調整中。現在も1食と水、アルミブランケットのみ準備。企業には従業員を留め置くように依頼している。

<質疑>

・(20-5 吉野) 3日で本当に物資は届くか。

→絶対とは言えないが届くことになっている（震災は地域限定の災害である。）

・(18-3 矢野) ①避難場所での給水、②井戸、③通信手段について

→①すみれ小に給水車は来ないわけではないが、すぐということにはならないかもしれない。地域拠点には優先してくることはなっている。

→町内会では7000Lのタンクをもっており、給水車がくればそれに保存できる。

→②すみれが丘には井戸は1～2本あるらしいが使用については未調整。なお、掘ると1本400万円。

→③FM つづきと交渉中。東日本大震災でも情報拠点として地域FM局が機能したので。

→アマチュア無線協会と調整し、区役所との連絡には協力してもらえ。防災拠点に配置する予定。

・(37-2 神谷) 一般家庭での情報の取り方は？

→停電してなければテレビ、なければラジオを活用。携帯に防災情報メールを配信することも計画している。

・(10-16 小林) 練馬区のように防災スピーカーの設置は

→都筑区では H20-22 年度に洪水対策として早渕川、鶴見川沿いに 9 か所設置したが、地震対策など広域対応は難しい。1 基 200 万かかりメンテも必要。また音声は狭い範囲（横浜の地形では 1 km くらい）しか届かない。津波対策で沿岸部では津波警報システムの整備計画もある。

・今日の資料の各戸配布はできないか？

→区にも 500 部くらいしかないのが難しい。

## 2. 防災部会報告（加藤防災部会長）

・今日のパンフを参考に家に帰ったら点検をお願いしたい。

・5月の初期消火訓練参加者は2割くらいだった。日頃の訓練が大事なので今後も参加して欲しい。

・「今震災が来たら」を想定して行動してほしい。

・共助をお願いしたい。

・今年度は防災地図を作成する訓練（DIG）も実施した。消火栓やホースの位置を確認してほしい。

・AEDを導入（会館に設置）したので、もしもの時には使える。

・消火器の詰め替えあっせん活動も実施した。

・その他消防団の激励会、リヤカー・自転車・貯水タンクの整備なども行っている。

・毛布は防災拠点に20枚、カンパンは2000食しかない。水、食料、携帯トイレの備蓄をお願いしたい。

・(9-1 梶田) AEDの活用方法は。

・→会館のカギの問題があり、運用を検討中。

・(18-3 矢野) ①避難場所での共助（安否確認における組長の役割）、②通信手段、③救護方法等についての提案。①黄色いハンカチ・タオルの掲示などのシステムにすれば、組長の安否確認も容易になるのではないか。報告システムを作ってはどうか。②トランシーバーの購入・備えはどうか。③井戸水利用の再検討。④太陽光パネルを備えた街灯の設置はどうか。

→限られた町内会費をどう使うか、今後検討したい。3～5年計画で進めたい。

## 3. 広報部会活動報告（西広報副部会長）

・すみれが丘だよりを3回発行した。ホームページも整備しているが、累計アクセスが6500くらい。改善提案があれば連絡して欲しい。

#### 4. 環境衛生部会（石井環境衛生部会長）

・資源ごみ持ち去り対応、回収にひきつづき協力をお願いしたい。

#### 5. 事業計画等への要望、組長としての意見等について(荒牧会長)

→ブロック組長会を今年度から開始し、意見の吸い上げを進めている。ゴミ問題や犬のフンの問題などがまだあるがどうか？

・(40 田村) 久しぶりに組長をやったが、昔と雰囲気違っており、交流が少なくなった。昔はバスの路線誘致や郵便局の誘致などで地域がまとまっていた。お互いの声掛けが重要。昔は近所同士の付き合いがあったので、役員選びもあまり苦労しなかった。

→すみれ小であいさつ運動を展開している。大人のあいさつのキャンペーンが必要かも知れない。組長に協力をお願いしたい。

(19-2 富山) 自分の組は10軒なのだが、組によっては20軒のところもある。組を再編してはどうか。10軒くらいならお互いの顔もわかる。黄色いハンカチ等の対応もできる。

→いい提案と受け止め今後検討したい。

(14-44 伊藤) ゴミ問題は減ったが、ネットボックスの支柱が壊れている。修理をしてほしいのだが、どこに言えばよいかわからない。

→(栗山) 業者に新規の設置も一緒に対応してもらおう予定なので、もう少し待つて欲しい。

#### 6. 連絡事項（福森副会長）

・加入促進運動への協力をお願いしたい。

・4/22の総会までが組長任期である。新組長の選任と引き継ぎをお願いする。

・組内の名簿修正をしたいので、変更があれば新組長の選任と一緒に教えて欲しい。

・本日配布のアンケートに記入をお願いする。

以上